

# 私見創見 Saturday

読書の楽しみは捨てがた  
い。もともとは学者になりた  
いと思っていた。部屋にこも  
って読んだり書いたりが一番  
好きなたちだったので、よも  
や人の家まで行って診察する  
心待ちにして、辞書を片手に  
わくわくしながら読んだこと  
を覚えている。

それが今や電子書籍でアメ  
リカと時間差なしに読める  
ようになった。さらに、興味  
を持った本は即座に買って  
読むことができる。文学や哲  
学、歴史までさまざまな出版  
物の書評を集めたイギリスの  
「The Times Literary Supplement」という雑誌を毎週  
楽しみにしているが、興味深  
い本が次々に紹介され、そこ  
から読書の幅が広がってい  
く。

かつては読みたいものを手  
気がつくくと文学、哲学、歴

## 伴う労力に価値がある

史、科学技術、時事問題まで  
八つほどの雑誌を読むように  
なった。その中で興味を持っ  
たテーマで調べると、新たな  
本が見つかり、さらにそこか  
ら世界が広がる。読み方もい

ろいろなテーマについて少し  
ずつ読みながら、散歩するよ  
うにわたり歩くのが好きだ。  
16世紀のイギリスとトルコの  
外交関係、ドイツの最新の哲  
学理論、中国の人口問題、カ

ナダ人が考えた心理療法の方  
法論、マサチューセッツ工科  
大学(MIT)が開発した革  
新的な技術について読んで、  
シェイクスピアに戻ってくる  
と、ソファに座りながら世界  
を一周してしまう。過去と未

来も行き来しながら、在宅医  
療の電話待機をしても、  
時間を忘れて楽しむことがで  
きる。

### 小倉 和也

はちのへファミリ  
クリニック所長



おぐら・かずなり  
1972年生まれ。2010  
年に国内でも珍しい  
家庭医療の医院を八  
戸市で開業。国際基  
督教大、琉球大医学  
部卒。八戸市出身。

インターネットの普及で、  
子どもが物事に興味を持ち換  
索することも簡単になった。  
どこかに行って調べたり、本  
を取り寄せたりしなくても、  
クリック一つでいろいろなこ  
とがわかってしまう。それで

も、知識を得るには労力を伴  
い、それ故に価値があること  
も理解させたいと思う。  
米国式の教育を受けた大学  
時代、レポートを書くために  
は必ず文献を探し、バックナ  
ンバーやマイクロフィルムか  
らコピーを取って参考にする  
ことが求められた。目録を調  
べてフィルム庫からフィルム  
を取り出し、映写機のような  
もので確認してコピーを取る  
作業は、実に原始的だった  
が、それ故に知識を得る作業  
を自覚し情報の価値を実感す  
ることもできた。もちろん、

未来ある子どもたちにも、  
できる限り知識を得る苦勞と  
喜びを味わう機会を与えるこ  
とが大切だと思う。物を記憶  
することよりも、知ることの  
喜び、その過程の大切さ、そ  
して自分の可能性を感じられ  
る機会が得られるようにした  
いと考えている。